

1

エコ・ガーデンシティへ加速



たはらエコ・ガーデンシティ構想の実現イメージ図

モデル事業は、『菜の花エコプロジェクト』『エコ・エネルギー導入プロジェクト』『廃棄物リサイクルプロジェクト』『省エネルギー推進プロジェクト』のほか、都市機能や交通網の整備により環境負荷の軽減を図る『コンパクトシティプロジェクト』、汐川の浄化・海岸整備などを中心に自然環境の保全を図る『グリーン・ネットワークプロジェクト』、環境負荷の低減をテーマに産業の振興を図る『エコ・インダストリープロジェクト』の7つで構成

田 原市が進める『たはらエコ・ガーデンシティ構想』が、国土交通省の「環境行動計画モデル事業」に選定されました。

これは、同省が環境保全の切り口による意欲的な取り組みを国のモデル事業として公募したもので、田原市の先進

性が認められた形となりました。(全国で20件・県内で3件)

これにより、計画に基づく各種プロジェクトの実施に際して、国から交付金や規制緩和などの支援が受けられることが見込まれ、より効果的なまちづくりが期待できます。

企画課 ☎ 23局 3507



上段 = 右端・田原市で最も古い旧石器時代のナイフ形石器(約1万8000年前)、3点・細石刃(旧石器時代)、左2点・スクレイパー / 下2段 = 縄文時代草創期～旧石器時代の尖頭器

旧 石器時代(弥生時代の遺跡である『宮西遺跡』(大久保町)の発掘調査を行いました。

この遺跡は、昭和27・28年に愛知大学によって初めて調査され、弥生時代後期の住居跡・土器などのほか、縄文時代早期の土器が出土したことから、専門家の注目も高いものです。

今回の調査は、同地でのほ場整備事業に先立ち実施したもので、地表1m下から旧石器時代～縄文時代草創期(約

1万3000年前)の尖頭器などの石器を大量に見つけました。尖頭器や地層の様子から、当時の人たちが川か池の安定したれきの上で生活し、石器を作っていたことが想像できるほか、渥美半島の歴史の空白を埋める手がかりを得ることができそうです。また、出土した石器は、東海地方におけるこの分野の基礎的な資料として非常に重要なものといえます。

生涯学習課 ☎ 23局 3531



発掘体験する田原南部小学校の児童たち

2

『宮西遺跡』を発掘調査